



NEWS

THE TETSUJIN NEWS

株式会社東部がお届けするインフォメーション・レター

発行所 株式会社東部鉄人ニュース事務局
神奈川県相模原市緑区下九沢 1509-4
TEL.042-764-4128
FAX.042-762-9593
編集 鈴木明子
http://www.tobu21.co.jp

Vol.47
2014
7月号

つねに時代の先へ新技術と新発想でお応えいたします!



常に進化し続ける『e-pile』

ネクストステージへの幕開け



e-pile工法の生産ラインが画期的に進化いたします。
これまでの生産技術に加え全自動ロボット溶接によるオートメーション化を実現。
更なる生産性の向上からお客様の多様なニーズにもお応えすべく、より安定した
生産体制による迅速な対応とコストパフォーマンスを具現化して参ります。

e-pile 人に、地球に、やさしい再生可能な「循環型杭工法」
国土交通省大臣認定工法

現場で生まれた杭は
やはり実践にも強かった。



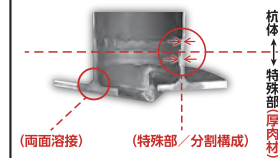
建築・土木・鉄道、さまざまな場面で活躍しております。

全ての鍵は杭先端にあり

杭基礎は建物荷重を支持地盤へ伝達させる最も重要な役割であり、故に、杭先端拡翼部の貫入(掘削)性、変位・変形・破断などを発生させない高い性能が要求されます。

- 貫入性の問題を・・・「**菱型穴**」により解決しました。
- 拡翼変形の問題を・・・「**特殊部**」により解決しました。
- コストの問題を・・・「**自社施工**」により解決しました。

■高力構造／拡翼断面図



■FEM解析図



鋼管杭基礎総合メーカー
Tobu 株式会社 東部
http://www.tobu21.co.jp

■ 本社
〒252-0134 神奈川県相模原市緑区下九沢 1507-5
TEL.042-762-4739 FAX.042-762-8971

■ 地盤評価センター
TEL.042-785-2811 FAX.042-785-2810

■ 施工管理センター
TEL.042-764-4122 FAX.042-762-8975

■ 相模原機材センター
〒252-0134 神奈川県相模原市緑区下九沢 1285-1
TEL.042-785-2812 FAX.042-785-2813

■ 本店／経理室
〒252-0134 神奈川県相模原市緑区下九沢 1509-4
TEL.042-764-4128 FAX.042-762-9593



新たなエネルギー活用へ～水素・燃料電池戦略ロードマップ～

詳しくは経済産業省のホームページをご覧ください。

経済産業省は、2014年6月23日に水素社会実現に向けた関係者の取組を示した「水素・燃料電池戦略ロードマップ」のとりまとめを行い公表しました。

○ ロードマップのポイント

水素の利活用について、技術的課題の克服や経済性の確保に要する期間の長短に着目し、以下の3つのフェーズに分けて取組が進められます。

第1フェーズ：家庭用燃料電池や燃料電池自動車等、足下で実現しつつある燃料電池技術の活用を拡大し、大幅な省エネの実現や世界市場の獲得を目指す。(現在～)

第2フェーズ：供給側においては海外の未利用エネルギーを用いた水素供給システムを確立するとともに、需要側では水素発電の本格導入も視野に入れ、エネルギーセキュリティの向上を目指す。(2020年代後半の実現を目指す)

第3フェーズ：再生可能エネルギー等を用いたCO2フリーの水素供給システムの確立を目指す。(2040年頃の実現を目指す)

■水素社会実現の意義

1:省エネルギー

燃料電池の活用によって高いエネルギー効率を実現することで、大幅な省エネルギーにつながる。

2:エネルギーセキュリティ

水素は、製造原料の代替性が高く、副生水素、原油随伴ガス、褐炭といった未利用エネルギーや、再生可能エネルギーを含む多様な一次エネルギー源から様々な方法で製造が可能であること、今後、こうしたエネルギーを地政学的リスクの低い地域等から安価に調達できる可能性があることから、こうした利点を活かして利用を拡大することで、エネルギーセキュリティの向上につながる。

3:環境負荷低減

水素は利用段階でCO2を排出しないことから、水素の製造時にCCS(二酸化炭素回収・貯留技術)を組み合わせ、又は再生可能エネルギー由来水素を活用することで、環境負荷低減、更にはCO2フリーにつながる。

4:産業振興・地域活性化

日本の燃料電池分野の特許出願件数は世界一位で、二位以下と比べて5倍以上と、諸外国を引き離しているなど、日本が強い競争力を持つ分野。また、水素製造等については、再生可能エネルギー等の地域資源を活用可能。

ワンポイント 健康コラム

7月に気をつけたい病気や健康管理のポイント

季節や気候によって私達の体には与える影響は様々です。そこで7月頃になると良くある症状などについてお話したいと思います。暑くなってきていても、まだジメジメとした気候。そんな時期に知っているようで意外に知らない気をつけておきたいポイントを4つあげたいと思います。

汗・湿度による皮膚疾患

湿度が高く汗が乾きにくい為、皮膚病もおきやすい時期なのです。汗が溜まる部位はあせもに悩まされる可能性があります。足の場合は水虫とあせもを区別しなくてはなりません。水虫は治ったつもりでも再発することが多い病気なので要注意です。気になる方は、一度皮膚科に相談してみましょう。



金属アレルギーの悪化

年間を通じてあるものですが、発汗量が多い時期は、どうしても金属アレルギーの発症も多い時期になるのです。腕時計の裏蓋は金属アレルギーを起こしやすいニッケルを含む事が多いので要注意です。ピアスをしている人も部位を問わず金属アレルギーには注意が必要です。眼鏡も金属枠を使用している場合も同様です。



ダニによる皮膚炎

室内や寝具についたダニによる皮膚炎が増加するものこの時期です。露出してない手足に朝起きて痒みがあった場合は、ダニによる皮膚炎かもしれませんので注意してください。お布団をなかなか干せないこの時期には、布団乾燥機などがおすすめです。お布団の乾燥ももちろん、ダニ退治もできるので、とても便利です。



蚊など虫さされ

夏に蚊にさされるのはある程度は避けられないことですが、体質によっては全身発熱や蕁麻疹を伴う可能性もあるため注意が必要です。意外と知られていませんが、特に朝のゴミ出し時間は蚊の活動時間と一致するため、夏だからとあまり露出が多い格好をしない方がよいでしょう。もちろん虫除けスプレーなども効果的です。最近では、無臭のものであったり、小型なものであったりと様々なラインナップがございますので是非活用してみてください。



経理マンが行く

ゲリラ豪雨

梅雨は湿度により家の中もジメジメしていて憂鬱になりますね。不安定な気候がまだまだ続きますが、もうすぐ気持ちの良い太陽の季節になります。あともう少しだけ辛抱しましょう。

さて、ここ数年この時期から夏場に良く耳にする様になった『ゲリラ豪雨』。どうやら2008年の夏に日本各地で局地的な豪雨が多発した際にマスコミ各社がこの言葉を頻りに使用し一般化したようです。その年の流行語TOP10にもノミネートされていましたね。

いわゆる局地的大雨のことですが、以前車を運転中に雨のカーテンが目の前に現れ、一瞬のうちに視界が真っ白になる状況はとても恐ろしく感じました。ゲリラ豪雨と呼ばれるだけあり、以前はいつどこで発生するのか予測が難しい状況でしたが、最近は気象観測の間隔を短縮し、観測装置の設置箇所も増やすなど監視体制を強化しているようです。

とはいえ朝晴天の時に雨の対策はなかなか取りづらいですよね。都心でも郊外でもゲリラ豪雨の際には洪水の危険性がありますので、この季節はやはり常に心構えをもって望みたいものです。

◆こんな時はゲリラ豪雨の予兆かも!

天気予報で「所によりわか雨」「大気の状態が不安定」「大雨、落雷、突風、竜巻、雹(ひょう)」と言っている。

防災気象情報で「大雨・洪水警報」「大雨・洪水特別警報」「周辺や川のの上流で大雨」と出ている。

川の水かさが増えたり、濁ったり、木の葉や枝、ごみなどが大量に流れてくる。

雷鳴が聞こえたり、稲光が見える。

冷たい風が急に吹き出す。

大粒の雨や雹(ひょう)が降り出す。

黒い雲が広がり急に暗くなる。



予兆を感じたら
すぐ安全な場所へ
避難しよう!!

